

地域学校協働本部だより



令和3年10月27日 事務局：国見町教育委員会

紅葉の美しい山並に秋の深まりを感じます。
日が短くなり一日慌ただしく感じる時もありますが、そんな時こそ秋の夜長を楽しみたいものですね。
目を凝らし耳を澄まして五感で季節を感じとれば、身近なところに思わぬ気づきや癒しがあるかもしれません。

<学校支援情報>

～いろいろ発見！町探検～

国見小学校2年生は生活科「もっとなかよし町探検」で町内の公共施設や商店街を探索し、国見町のことを学びました。

訪問先では施設やお店についての話を聞き、普段見ることのできない場所や物を見て真剣に学習していました。

また施設利用者と児童の交流やお客様がレジを待ち子ども達の様子を見守る姿もあり、家庭、学校、地域で子どもを育む姿が垣間見られました。

※児童訪問受入れ協力先

武文商店、佐久間パン屋、ラ・4区、
岩城肉店、樋口豆腐店、郵便局、
国見町役場、観月台文化センター



ご協力いただいた保護者ボランティア、訪問先の皆さん。ありがとうございました。

～声を出すのも運動です～

国見小学校2年生は国語科「声に出してみよう」の学習で、アナウンストレーナー引田さいこさん（桜の聖母短期大学生涯学習センター講師）を講師に招き、音読のポイントや方言によるアクセントの違いなどを学びました。

引田さんはコロナ禍のこういう時だからこそ、音読の楽しさや重要性を感じてほしいと、児童が集中して学べるカリキュラムを設定。軽いストレッチや早口言葉、方言の語りなど工夫を凝らした内容を子ども達は楽しみながら意欲的に学んでいました。



<家庭教育情報> ～家庭教育講演会2021報告～

国見町地域学校協働本部では家庭教育支援事業の一環として家庭教育講演会をリモート開催しました。

【講師】東北大学加齢医学研究所助教 榊 浩平 先生

【テーマ】

「スマートフォンの使用が学力に与える影響について」

※参加者 131名（国見小学校6年生児童、保護者、幼・小・中学校教職員、CS委員、その他）

※東北大学と6つの会場をリモートでつないだ講演会。

<講演の概要>

1 脳の働き

◎前頭前野（考える、理解する、覚える、がまんをする、人を思いやる、気持ちを伝える）

⇒ 計算ドリルの勉強 前頭前野が活性化する。一番脳が活性化する学習は、音読。

⇒ テレビゲームをしているとき脳は幅広く活動している。しかし、前頭前野は活動していない。

2 スマホの使用と学力

◎各種調査の分析から明らかになったこと

- ・ スマホ使用がない → 勉強30分+睡眠7時間で成績上位
- ・ スマホ使用1日3時間以上 → 成績上位に入れない
- ・ スマホを使う人は、勉強をし睡眠をとっても成績は低い
- ・ ながらスマホで3時間勉強→スマホ使用なしで30分勉強のほうが成績が良い。
- ・ ライン、ゲーム、音楽 → いずれも学力が低い。

ラインは自分が使おうと思わなくても友達からくると勉強中でも必ず見るようになる。

→ラインを全く使わない子は学力が高い。

★勉強中はスマホをOFFにし、目に入らない場所に置いておく

○辞書とスマホ

- ・ 知らない言葉を調べると… 辞書1分で3つ、スマホは1分で5つ。

→スマホのほうが効率的だが、使用しているときの脳の働きは、辞書のときはずっと活動しているが、スマホのときは前頭前野は休んでいる。

- ・ スマホは便利だが、脳に入っていない。スマホを使っていると、脳の発達が起こらない。



《榊先生から子ども達への呼びかけ》

- 1 スマホは1日1時間までにしよう。
- 2 LINE等はなるべく使わないようにしよう。
- 3 勉強中はスマホの電源をOFFにしよう。
- 4 調べ物をするときは辞書を使おう。

このようなマイルールをつくって、取り組むとよい。

地域ボランティアの申込みは随時受付けています。興味のある方は、ぜひお申込みお問い合わせ下さい。

○ボランティア登録の手続き、お問い合わせ先 【受付時間9:00～16:00】

国見町地域学校協働本部（観月台文化センター内）080-1857-3895（携帯）

国見町教育委員会学校教育課 585-2892